

男女共同参画に関する 市民意識・実態調査

ダイジェスト版



平成 13 年 1 月
岡 山 市

男女がともに参画するまち岡山市をめざして

岡山市は、女性も男性もその一人ひとりの個性が輝き、
互いに人権を尊重しあって生き生きと暮らせる、
誰もが住みたいまちをめざしています。

この男女共同参画に関する市民意識・実態調査は、
市民の皆さんの求める暮らしやすい岡山市の姿を明らかにし、
今後の本市における男女共同参画社会推進に
関する条例の制定、基本的な計画の策定のための
参考資料とするために実施しました。

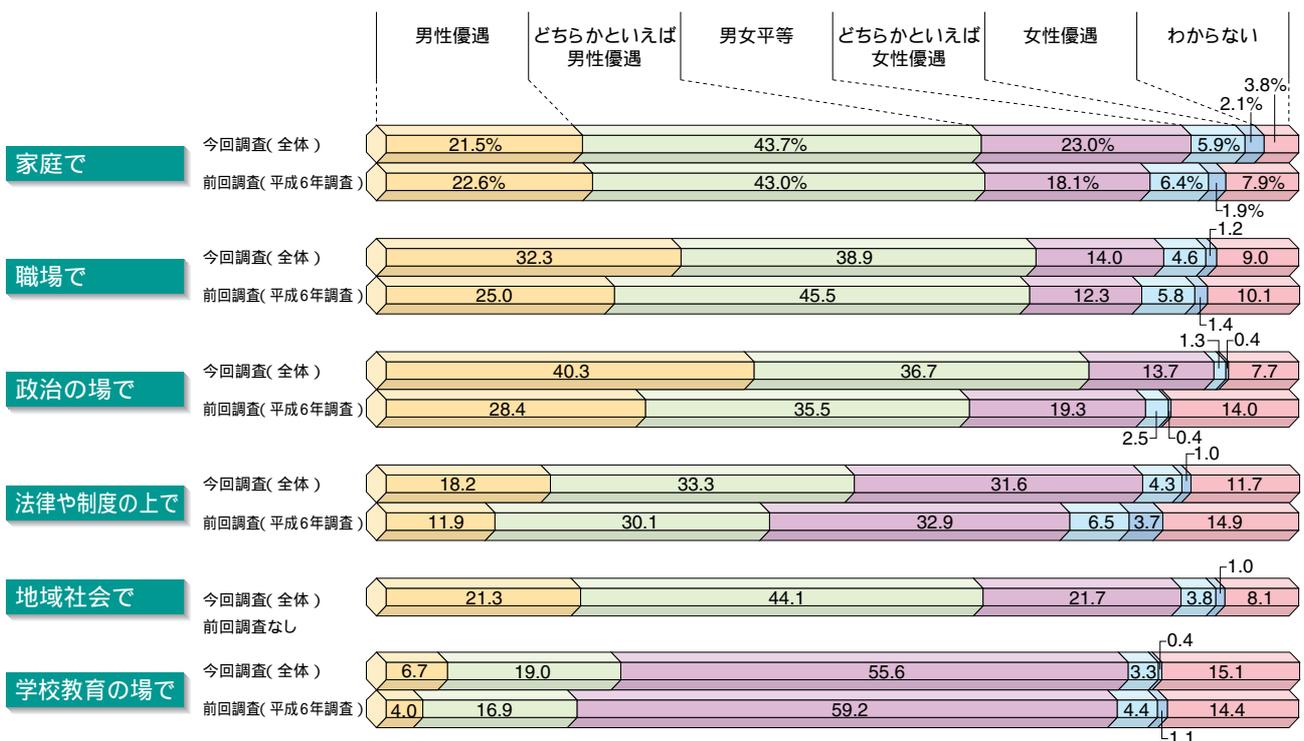


男女の地位の平等について

1.全体をみると

各分野における男女の地位は、教育の分野を除いて『男性優遇派』が5割を超える。

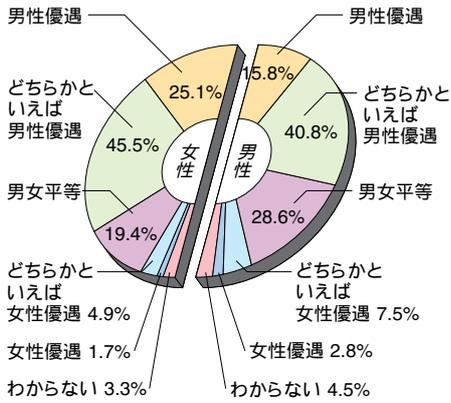
日常生活の各分野における男女の地位が平等になっているかという問に対して、
「学校教育の場で」のみが「男女平等」が5割を超え、他の5つの分野では、男性優遇派が5割を超えている。
また、「政治」「法律・制度」「学校教育」では前回調査に比べて男女平等派が増加している。



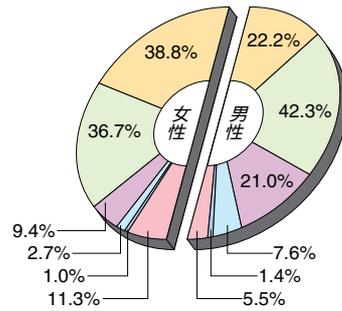
2.性別でみると

性別でみると、女性は男性に比べて「男性優遇派」の割合が多い。

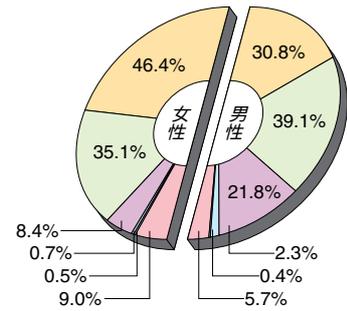
家庭で



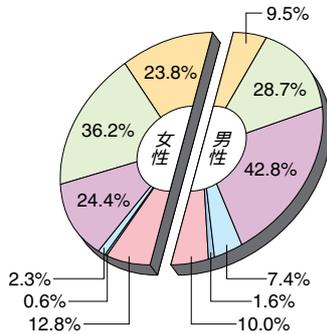
職場で



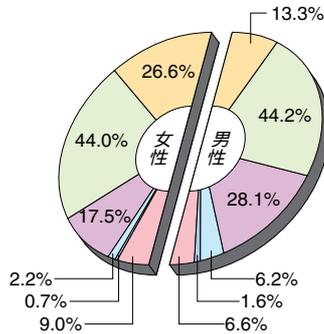
政治の場で



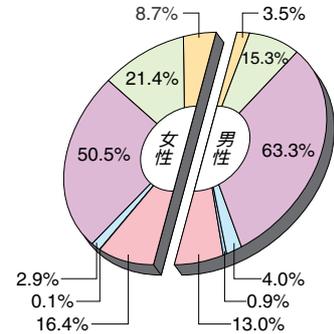
法律や制度の上で



地域社会で



学校教育の場で



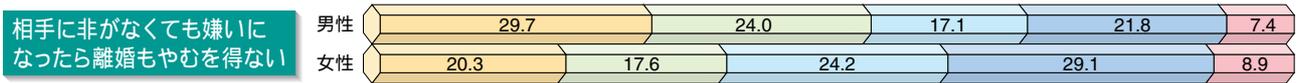
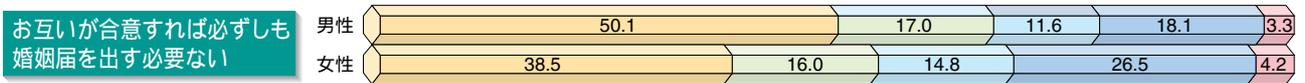
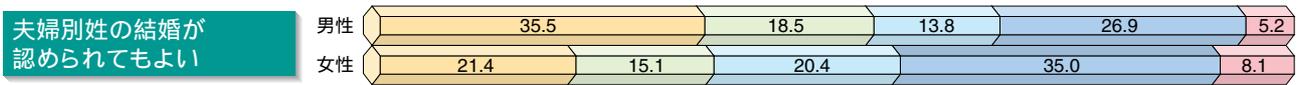
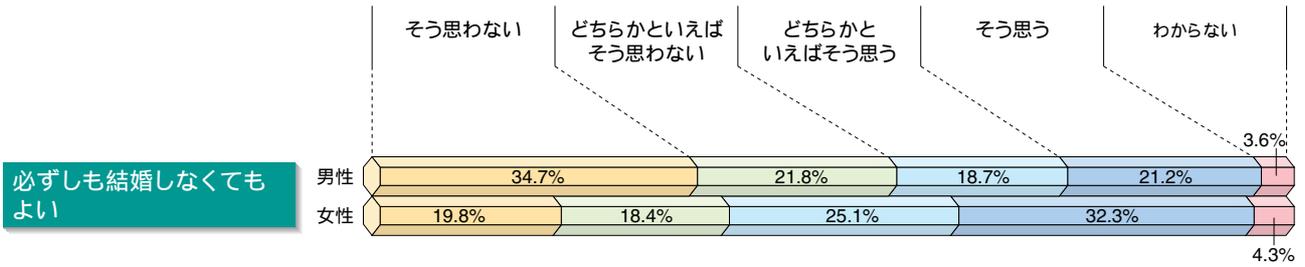
女性が政策・方針決定に進出していない理由

女性が政策・方針決定に進出していない理由の上位3項目の「男性優位の組織運営」、「家族の支援・理解なし」、「性別役割分担・性差別」については女性のほうが、男性に比べて、その理由をあげる人が多い



結婚について

結婚についての考え方についてたずねてみると、
 婚姻という制度的形式に対する支持は、依然として根強い。
 性別で見ると女性は男性に比べて肯定派が多い。

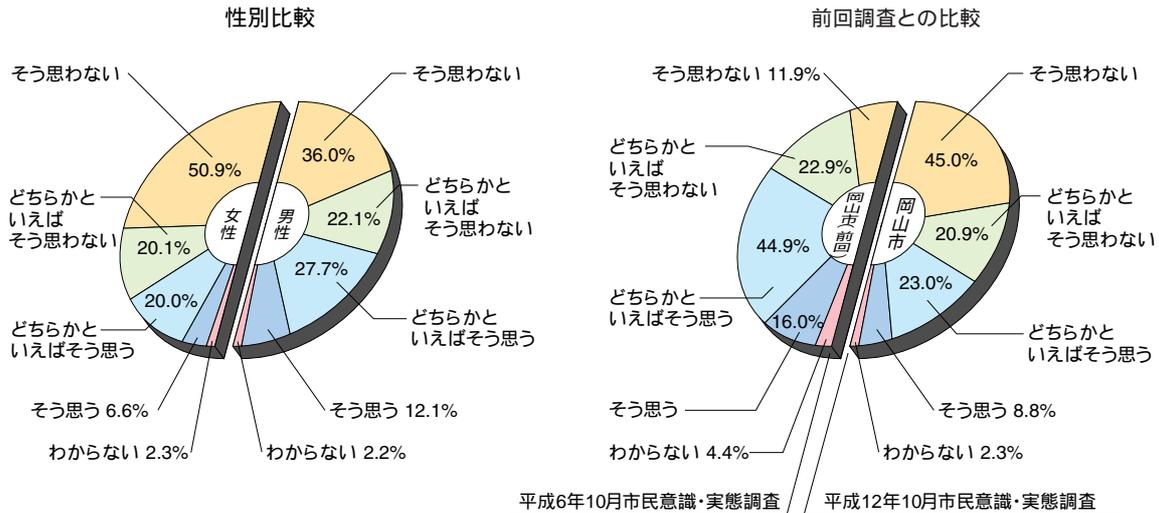


家庭生活について

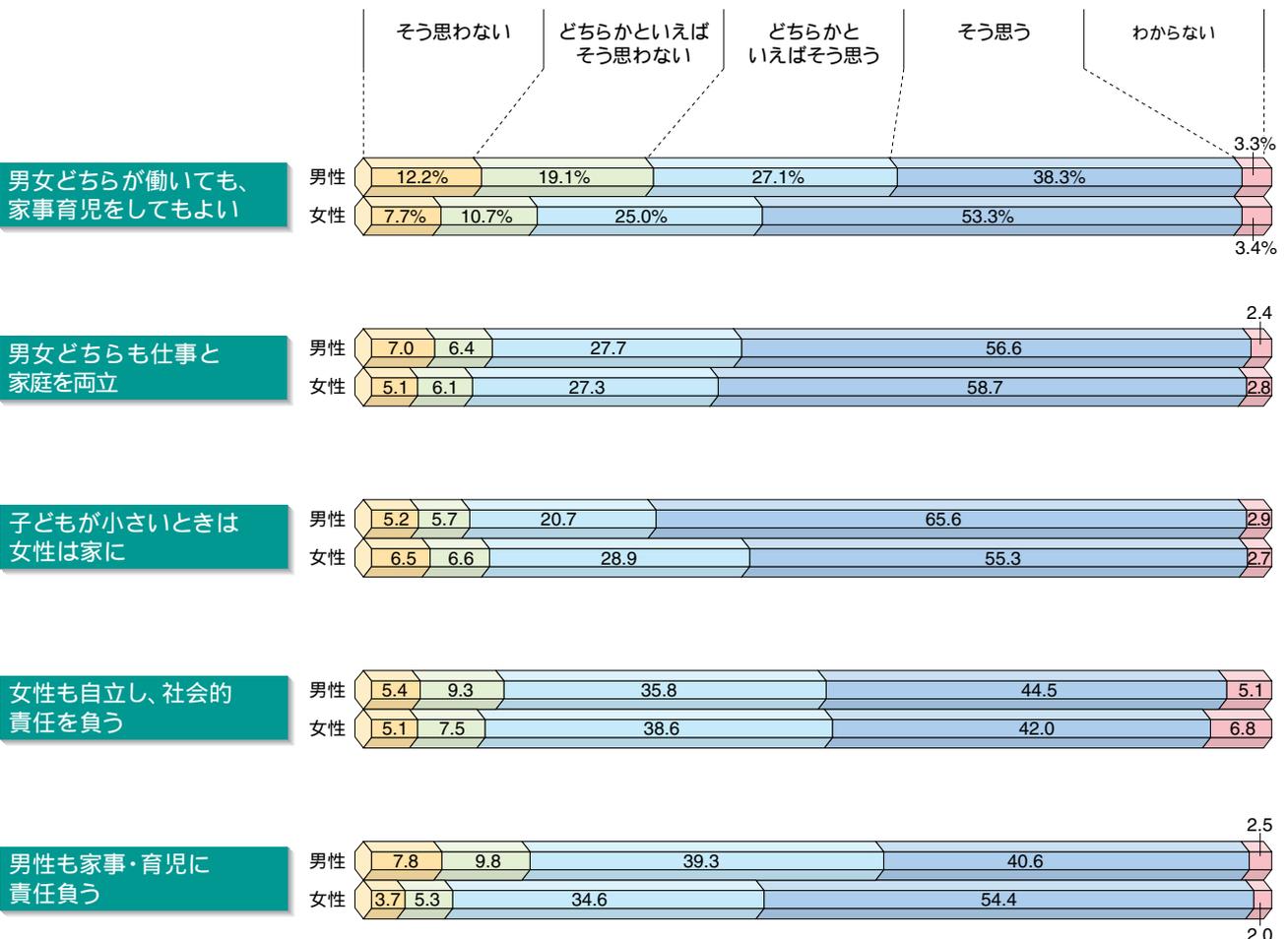
男は仕事、女は家庭

従来型の性別役割分担を支持する人は、少数派。

前回調査にくらべると「男は仕事、女は家庭」について肯定派が大きく減少。

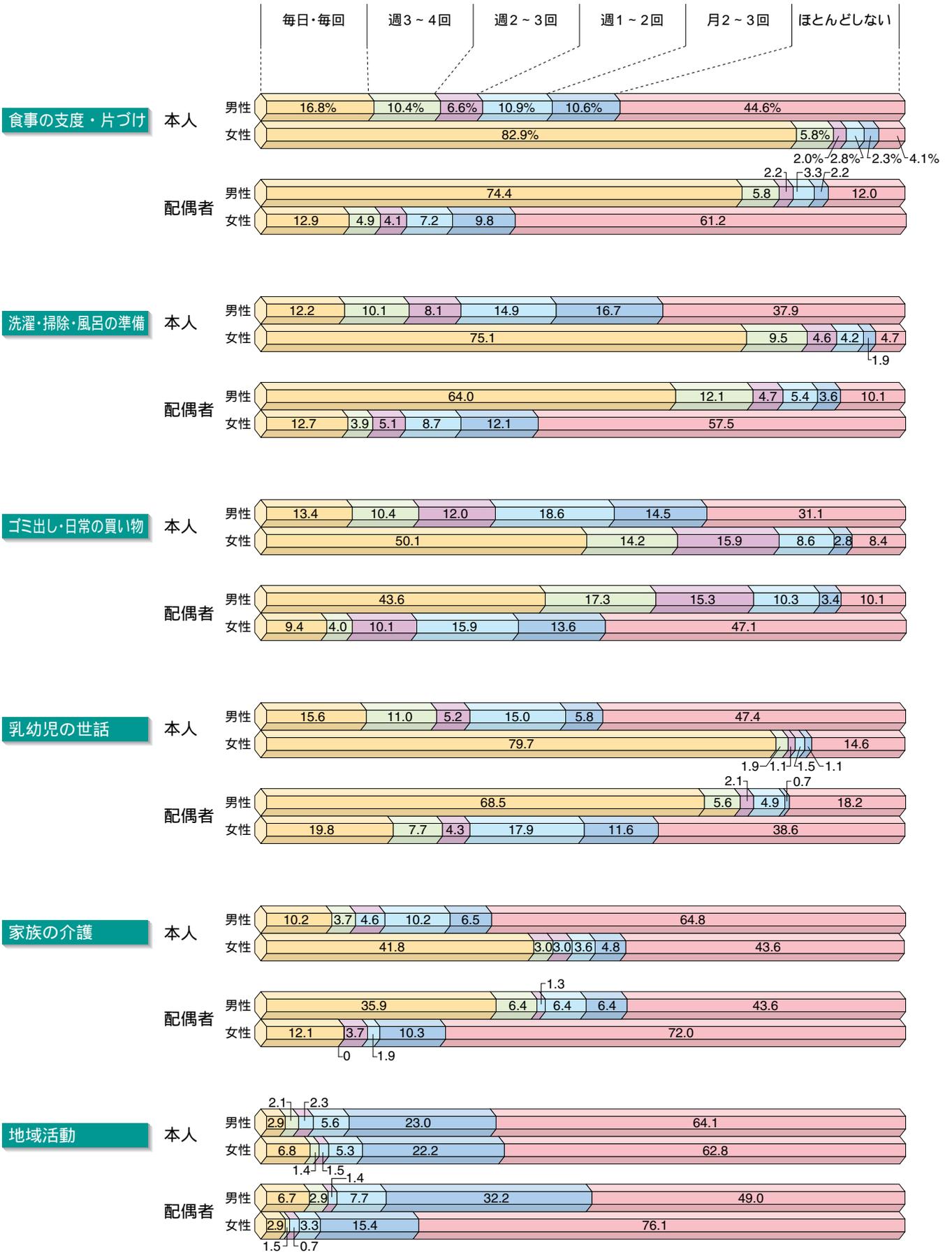


子育ては女性の役割という性別役割分担意識がまだまだ根強い。



家事・育児・介護・地域活動への参加時間

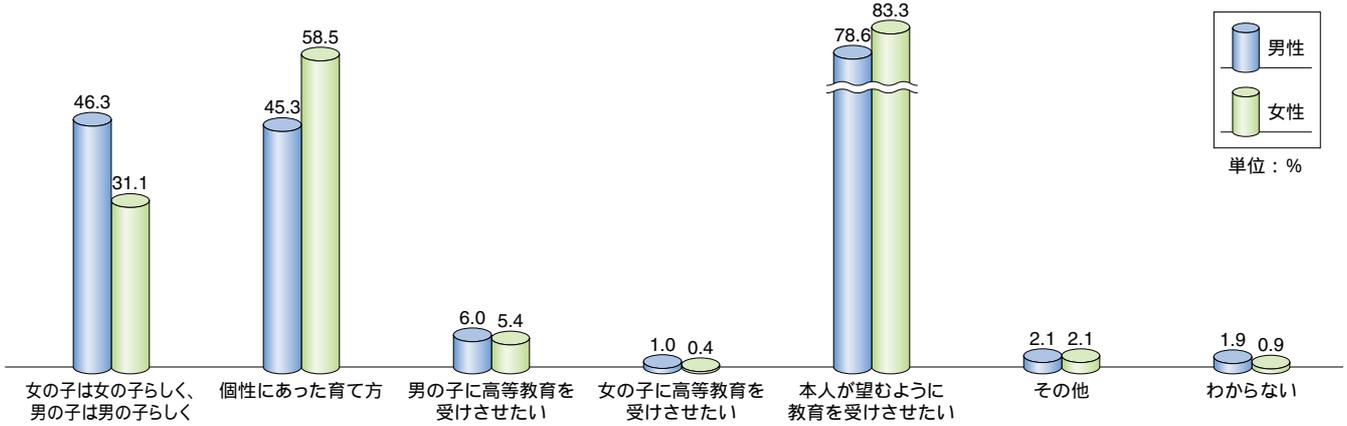
依然として家事労働の大部分を女性が担っている。



子育てについて

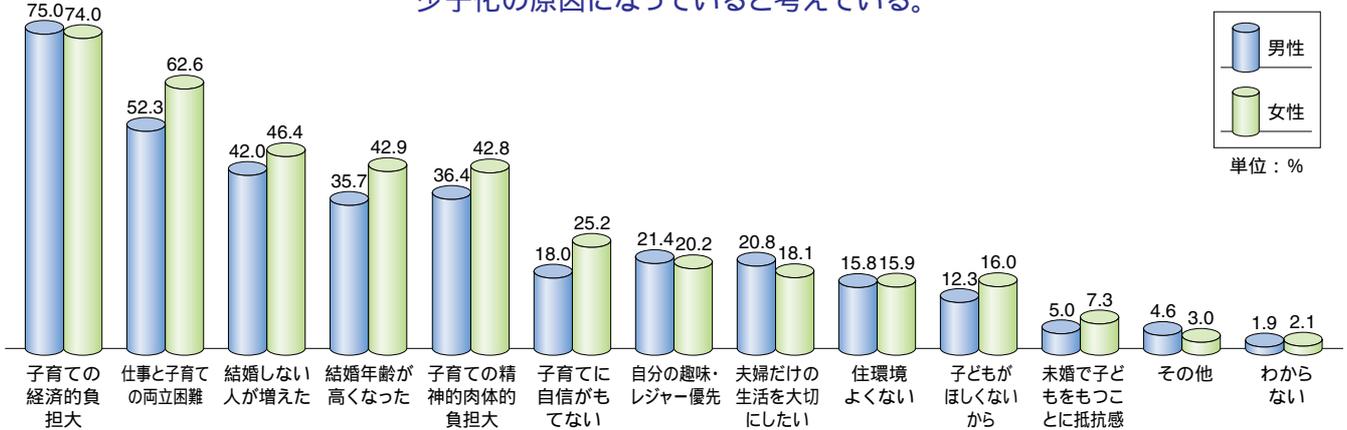
1. 子育ての考え方について

「個性にあった育て方をしたほうがよい」というジェンダーにとらわれない子育てを支持する人は女性に多く、男性の方が女性にくらべて、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考え方を支持している。



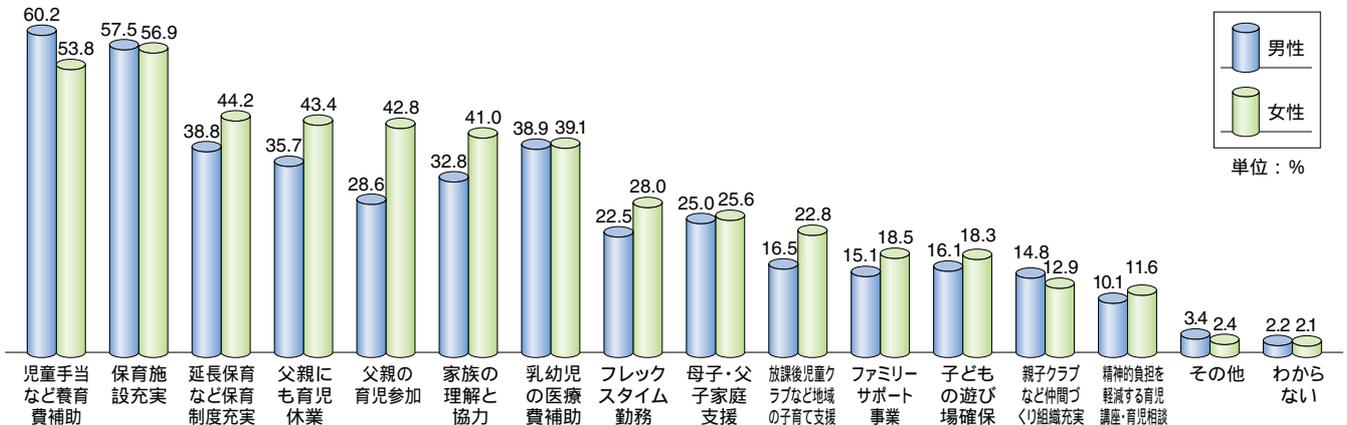
2. 少子化の原因について

多くの人々が、子育ての経済的・精神的負担や、子育てと仕事の両立の難しさが、少子化の原因になっていると考えている。



3. 安心して子どもを産み育てるために必要なこと

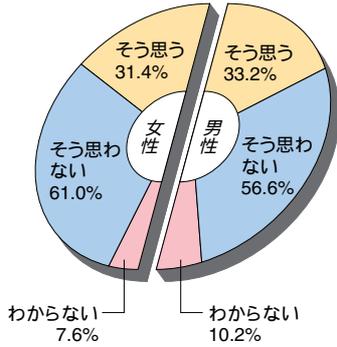
女性は男性に比べて、より多様かつ、きめ細かい理由を挙げる人が多い。



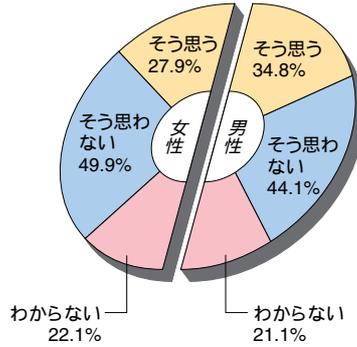
リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて

子どもを産むことについて夫婦・カップル単位で決めることと、産む女性自身の判断を最優先させることとの間には、まだ、やや距離がある。

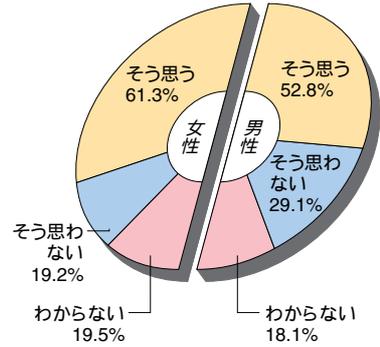
女性は子どもを産んで一人前



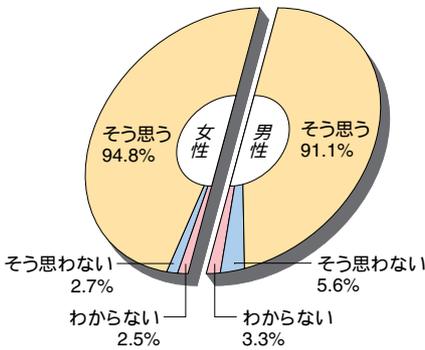
女性はもっと子どもを産むべき



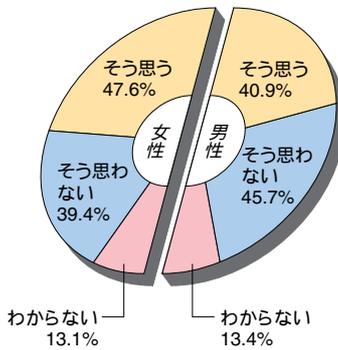
女性が生みたくなければ生まないことも認める



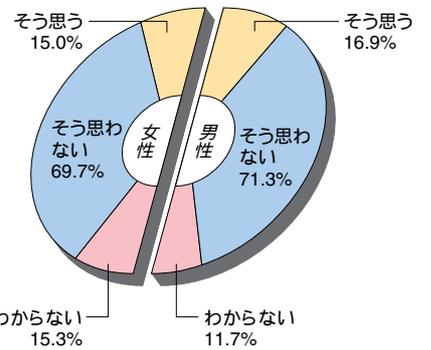
夫婦カップルで話し合う



女性自身の判断優先



パートナー以外の家族の意向も尊重

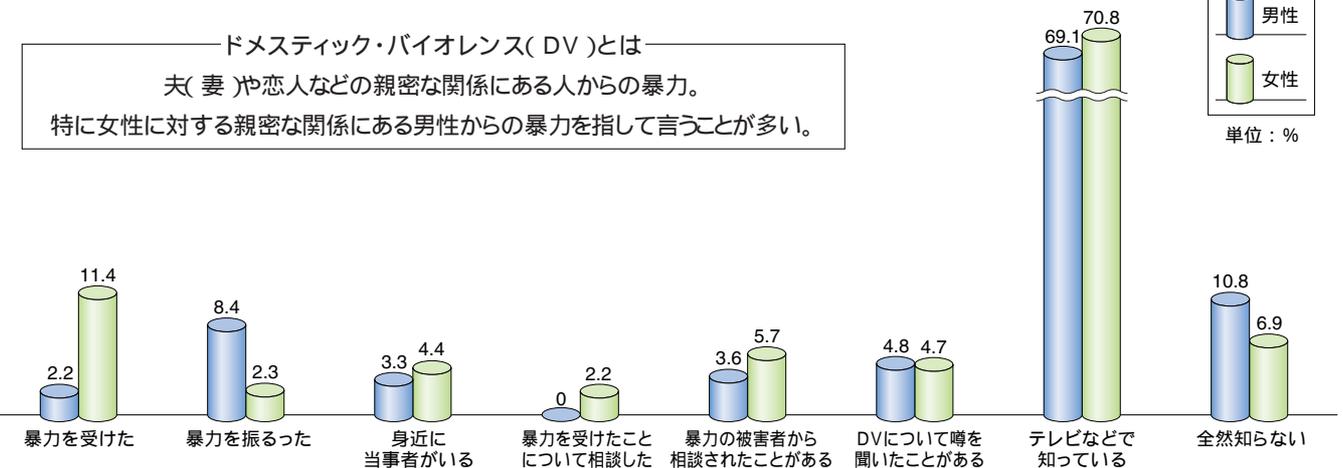


リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康・権利)とは—
子どもを産むか産まないか、産むとすればいつ、何人産むかを女性が自己決定する権利を中心課題とし、広く女性の生涯にわたる健康の確立を目指すもの。

ドメスティック・バイオレンス(DV)について

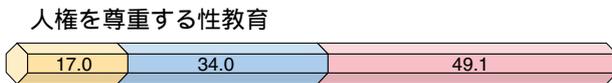
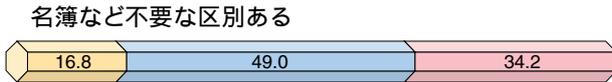
「暴力を受けたことがある」女性が全体の11.4%

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは—
夫(妻)や恋人などの親密な関係にある人からの暴力。
特に女性に対する親密な関係にある男性からの暴力を指して言うことが多い。



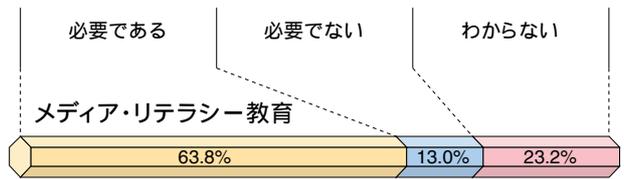
学校教育・社会教育について

1. 学校教育におけるジェンダー・フリー



ジェンダーとは
 男女の生物学的な性差をセックスと呼ぶのに対し、社会的・文化的に形成された性別のことをジェンダーといいます。
 「女とは / 男とはこういうものだ」という通念を基礎にした男女の区別です。

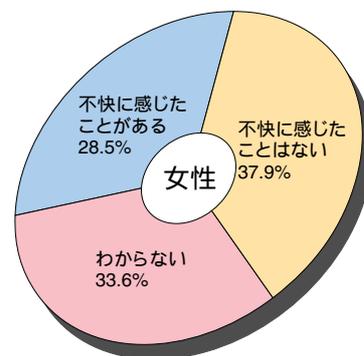
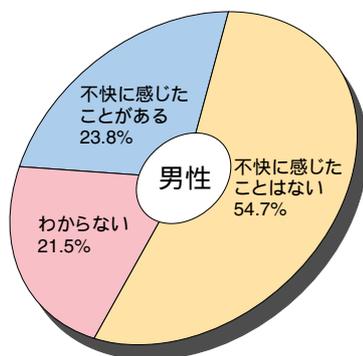
2. メディア・リテラシー教育とジェンダー教育



メディア・リテラシーとは
 メディアの内容を解説・活用する能力とメディアを使って表現する能力をさします。

3. メディアの性差別表現について

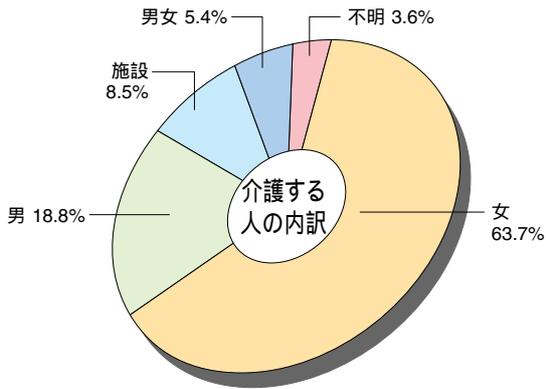
新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのメディアにおける性差別的表現について
 「不快に感じたことがある」人は女性のほうがやや多い



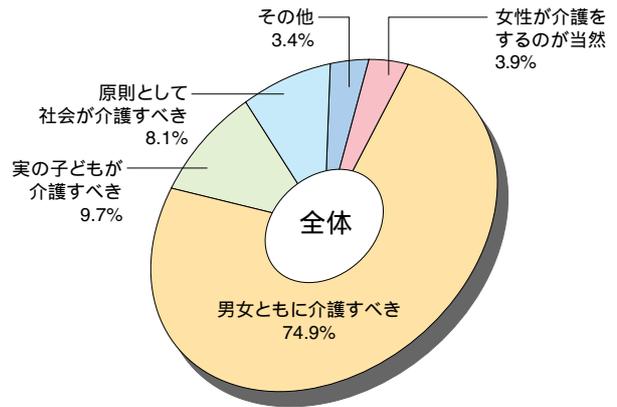
高齢社会・介護について

「男性も女性もともに介護すべきである」という回答が圧倒的であるが、女性のほうが圧倒的に介護の主力となっている実態が浮かび上がってくる。意識と実態の乖離を示す典型的な現象である。

1. 介護するのは男性か女性か

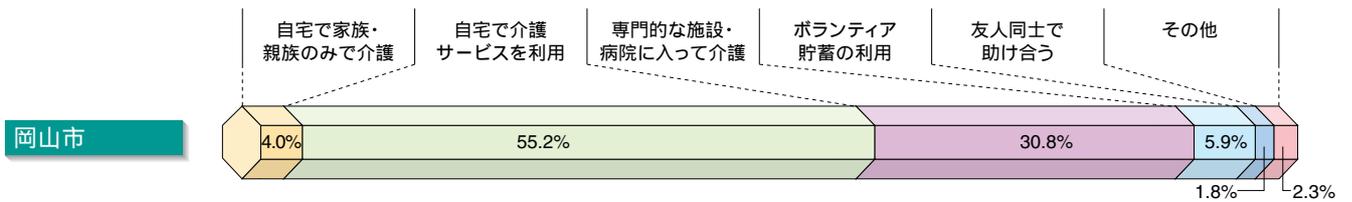


2. 女性が介護することについて



3. 高齢者の介護の将来について

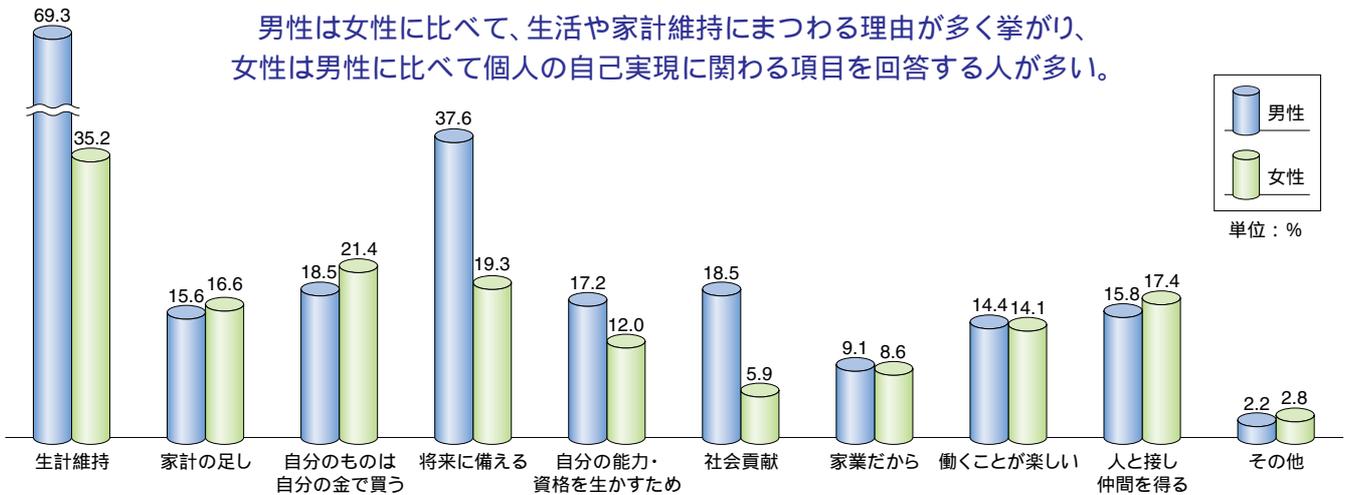
高齢者の介護方法について、「自宅で、介護保険制度などのサービスを利用しながら、家族・親族が介護する」(55.2%)がもっとも多い。



職場について

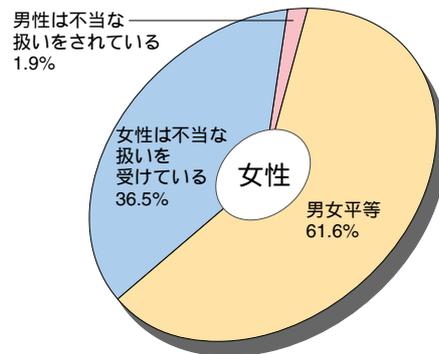
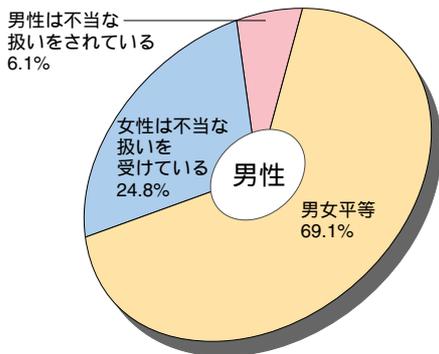
1.働いている理由について

男性は女性に比べて、生活や家計維持にまつわる理由が多く挙がり、女性は男性に比べて個人の自己実現に関わる項目を回答する人が多い。



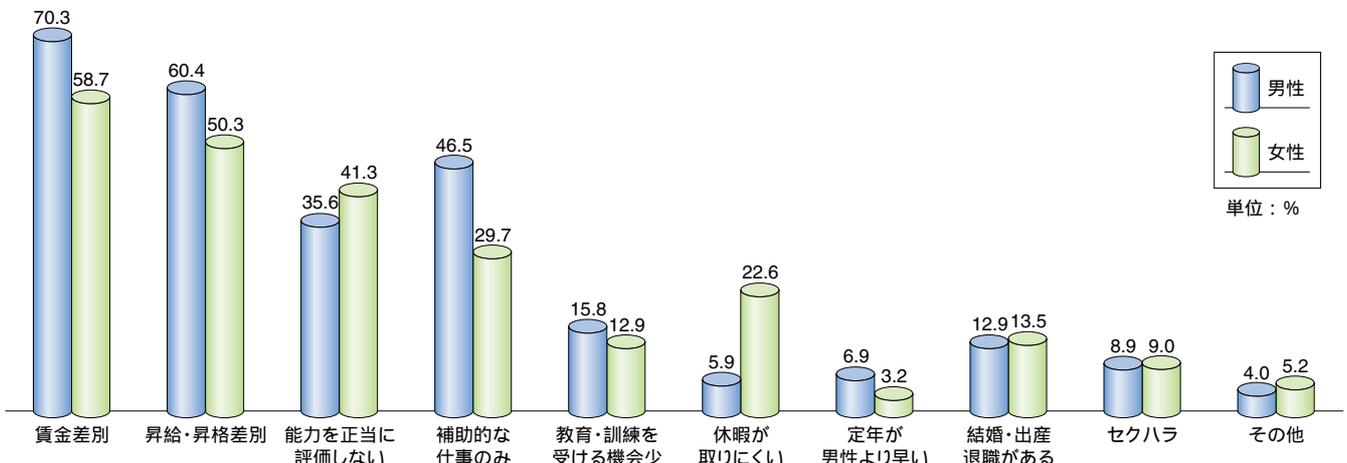
2.職場における不平等な扱いについて

「女性は男性に比べて不当な扱いをされていると思う人」は男性よりも女性に多い。



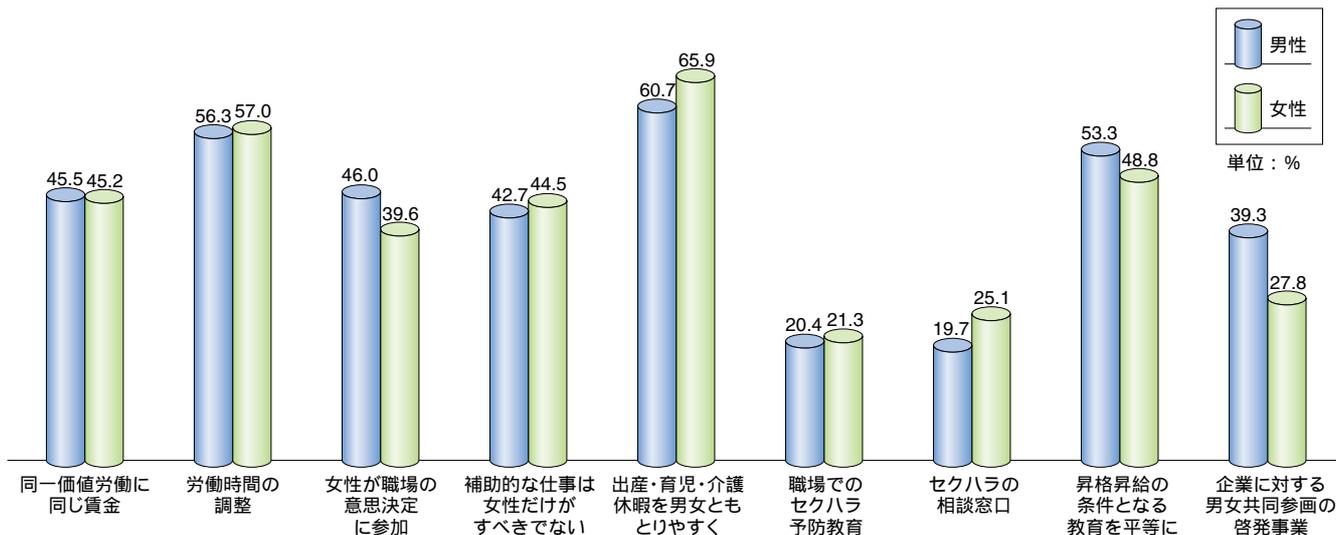
3.女性に対する不当な扱いの具体的内容について

賃金差別・昇格差別・能力に対する不当な評価が、女性に対する不当な扱いのトップ3。



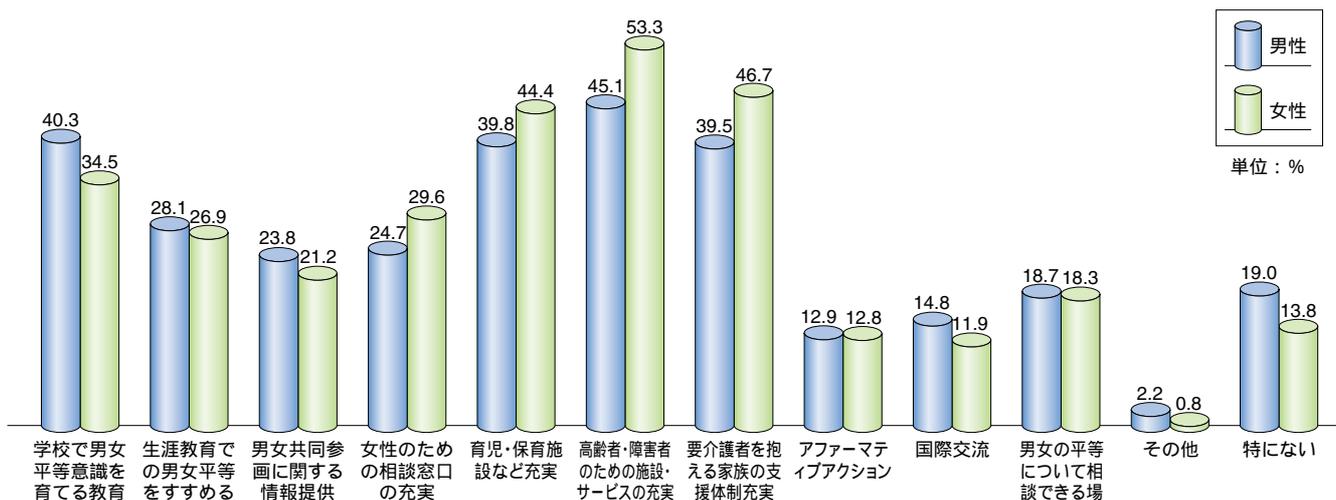
男女が各自の能力を発揮して生き生きと働くために必要なこと

性別にみると、男性は女性にくらべて「女性をもっと職場の意思決定に参加させる」べきと考えており、「企業や事業所に対する男女共同参画についての啓発事業を行う」べきだと考える人が多い。他方女性は、男性にくらべて「出産・育児・介護休暇を男女ともにとりやすくする」ことを必要と考えており、「セクハラなど安心して訴えることのできる相談窓口を作る」ことを求めている人が多い。



あるべき岡山市の姿について

介護・育児に関わる事項に対する関心が高く、積極的な市政・サービスが求められている。教育・情報提供への関心も高く、相談機能の充実を求める声もある。



調査のあらまし

- ①調査対象 20歳以上 男女3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- ②調査方法 郵送法
- ③調査時期 平成12年10月
- ④回収数 1,537人（男性 583人 女性 914人 不明 40人）
- ⑤回収率 51.23%